

所在地：佐賀県唐津市 選定年月日：平成20年7月28日 面積：400.9 ha 選定基準：一(一)

(1) 概要

「蕨野の棚田」は、唐津市相知町内に所在し、蕨野区と池区の二つから形成されています。棚田は、八幡岳の馬蹄形状をした北向きの急斜面地に約36haにわたってひろがっています。棚田の石積みは野面積みを基本とし、平均の高さは3～5m、高いものでは8.5mに及びます。

池区には棚田の水源となる2つのため池（明治18年、昭和12年）があります。

蕨野の集落は、平山川河谷の標高150m付近に疎開村状に展開しており、「ツカ」と呼ばれる防風石垣を伴う民家を残しています。技術的な特性から、防風石垣の石積みと棚田の石積みは、同じ石工（集団）によって積まれたと考えられます。棚田の築造は、少なくとも江戸後期にまで遡ると考えられますが、現存するものの大半は明治～昭和20年代までに形成されたものです。

棚田とその周辺の森林及び水系は、固有の製造技術や「手間講(てまこう)」と呼ばれる共同作業に基づいて維持され、それぞれの関係を維持しつつ一体として独特の土地利用を持つ文化的景観を造り上げます。現在は、減農薬・減化学肥料によって生産された「棚田米蕨野」が、ブランド化に成功しつつあります。



蕨野の棚田全景（北側から）



早苗の緑がまぶしい棚田（南川原）



高さ8.5mの高石垣（南川原）



手間講隊による田植え

（２）選定範囲



- 重要な構成要素：２件

（３）選定による効果

蕨野の棚田は選定前の平成13年より毎年「棚田ウォーク」を開催するなど、多くの来訪者を集めてきました。平成20年に重要文化的景観の選定を受けた後も積極的に棚田米のブランド化や、大学・企業などとの交流を行いました。これらの取り組みが評価され、平成30年に農林水産省が作成した「棚田キラークンテンツ化促進ガイド」では優良事例として取り上げられました。

選定後、棚田の景観を将来にわたって継承していくため、住民とのワークショップを重ね、重要文化的景観の整備に関する計画を策定しました。また文化的景観に係る棚田の修復について補助金の交付要綱を定め、所有者が自ら行う事業に対して支援する制度を整えました。現在では「棚田ウォーク」を始め、棚田のライトアップなどのイベントを開催し、棚田ファンが増えつつあります。



棚田ウォーク



住民とのワークショップ

（４）保存活用計画などの基礎情報

- からつ蕨野の棚田 文化的景観保存管理計画（平成20年1月、唐津市教育委員会）
- 重要文化的景観「蕨野の棚田」整備計画（令和2年3月、唐津市）

(5) 活用事例

事例41-01 ①

石積み棚田の修理・修景に係る基準の作成と事業支援

文化庁補助金

●行政による取り組み

棚田は、玄武岩と砂岩の円礫を用いた野面積みの石積みの特徴とします。高さ3～5メートルの石積みが多く、高い石積みは8.5メートルにもおよびます。

棚田は長年の風雨に耐えきてきましたが、近年の気候は異常と言えるほどであり、特に山間部に位置する蕨野地区は集中豪雨が多発しています。

棚田の景観を将来にわたって継承していくため、「唐津市文化的景観保護推進事業補助金交付要綱」を定め、整備計画を踏まえて所有者が自ら行う事業に対して、経費の補助を行う仕組みを整えました。

石積み所有者の声（関係者の声）

石積みが豪雨災害により崩落しても、農林部局からは現代工法での修復を言われますが、文化的景観であることから、在来工法での修復をと言われていたので、文化財サイドが支援を整え、補助金も受けられたので、大変助かりました。



石積みの修理



石積みの災害復旧

地盤	元々の自然地盤である地山は、硬質な地盤のことが多い。一方、人工的に盛られた土でできた盛土部分分、人工的に締固めているが脆弱であるため、石垣の構造上の安全性に配慮が必要。	
法下の用途	法下が水路や農道など、崩落した場合に広範囲に影響が生じる箇所については、基礎の安全性に特に配慮が必要。	
石垣全体		
勾配	原則、両隣に合わせる	
石の大きさ	原則、既存の石材に準拠するもしくは同時に望見される周囲の空積の石に準拠する。ただし、石の控え（奥行き）を十分確保することに留意する。	
石材の素材	旧材を用いて積み直すことを原則とし、旧材が破損または控えが短すぎるなど、そのまま再利用するには問題がある場合については新たな石材で補う。新補材は周辺石垣の石材に類似する自然石を用いる。	
工法	空積の場合	練積の場合
	- 栗石や砂利などで裏込める伝統的な工法。 - 勾配によって積める高さが変わる。 - 石積空間に生物が生息し、多自然型の擁壁に適している。	- 胴込や裏込にコンクリートを充填する工法。 - 一般に空積より高く積むことができるが、高い場合は、小段を設置するとともに、水抜穴や伸縮目地が必要となる。
裏込	原則、栗石や砂利を用いる。安全確保上必要であれば、接合を強化するためにモルタル等を接合剤として補足的に用いることは可能とする。この場合、水抜きの処置を行うとともに、以下に留意する。 1. 石材の空隙から接合剤が漏れ出ないように施工する。 2. 管等の排水口を石材の前面より後退させる等景観に配慮する。 3. 天端に接合剤が表れないようにし、やむを得ない場合、自然との調和を図る。	実行を多くとり、胴込コンクリートの目地を石前面より極力後退させる。
	原則、自然石の根石とする。ただし、法下が農道や水路に面する等の特別な事情がある時は、根石をコンクリート基礎に置換可能とする。この時、上部の石垣の安定性に影響のない基礎形状とし、基礎上端を地盤面より下げる等景観に配慮する。	根石をコンクリート基礎に置換する場合は、上部の石垣の安定性に影響のない基礎形状とし、基礎上端を地盤面より下げる等景観に配慮する。
水抜孔	原則、設けない。	必要最小限とする。先端は極力石前面より後退させるとともに、石で隠れるように配置する。
かみ合わせ	毛抜き合端、笑い合端、あぶり、四つ目地やいも串等の目地の不具合が極力ないように石をかみ合わせる。	
天端処理	構造上の安全性を確保したうえで、周囲との調和を図る。	
断面の参考例		

なお、工事の内容は、その都度、保全委員会における検討を経たうえで決定する。

整備計画に示された「石垣の修景にあたっての配慮事項(重要な構成要素以外の要素)」

- ① 地域内での魅力の共有
- ② 目標性の共有
- ③ 地域外への広報
- ④ 魅力を引き出す
- ⑤ 財源の確保と運用
- ⑥ 人づくり

（５）活用事例

事例41-01 ②

保存会とNPO法人による棚田保全の体制

文化庁補助金

●住民や団体等による取り組み

平成13年に、合併前の旧相知町が主導して地域活性化に向けた交流事業を担う「棚田と菜の花実行委員会」を設立し、「第1回早苗と棚田ウォーク」を開催したところ、900人もの人々が集まり、地域住民は驚き、棚田の可能性を実感しました。

その後、棚田サミットなども開催し、平成20年に蕨野の棚田が重要文化的景観に選定されると、一気に機運が高まり、営農者である住民を中心に「NPO法人蕨野の棚田を守ろう会」が設立されました。

現在では営農者の高齢化が進行しており、棚田での営農を継続していくためには、石垣などの耕作環境の安全性の向上とともに、耕作や維持管理に係る負担軽減が求められています。このためボランティアなどの担い手の確保・支援を行いつつ、生産量の維持し、新たな販路開拓に取り組んでいます。

蕨野の棚田再生の契機となり、現在でも開催されている大事なイベントである「棚田ウォーク」も、継続に向けた体制の整備が必要となっています。



ライトアップした石垣をバックに夜桜コンサート開催



イベント開催の告知チラシ

NPO法人の声（関係者の声）

棚田での営農を継続するため、ボランティアや大学生の手を借りながら進めてきましたが、高齢化による離農が止まりません。新たな仕組み作りが必要です。

実行委員会の声

蕨野の棚田が文化的景観に選定される前の、平成13年から継続してイベントを行い、多くの人に来訪していただいています。市内外の人に棚田に関心をもっていただければ。

団体等情報： NPO法人 蕨野の棚田を守ろう会
<https://www.npo.warabino-riceterrace.com>

① 地域内での魅力の共有

② 活性化の共有目標

③ 地域外への広報

④ 魅力を引き出す

⑤ 財源の確保と運用

⑥ 人づくり